

1. 農試育成系統モモ103-1の特性			
[要約] 農試育成系統モモ103-1は、大果で、糖度が高く、渋み、核割れや生理的落果の発生が少ないことから有望視される。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0271(内線230)

## [背景・ねらい]

栽培が容易で生産が安定し、高品質なモモ新品種を育成する。

## [成果の内容・特徴]

1. 103-1は、昭和56年に‘うー9’と‘山根白桃’とを交配し、育成した系統である。
2. 果実重は約340gと大玉であり、平均して白桃より40g程度大きい。糖度は14度で、平均して白桃より1.5度高い。食味値についても白桃より高い(表1)。
3. 開花始めは白桃とほぼ同時期かやや早いが開花盛期はやや遅れ、開花終期は白桃よりやや早い(表2)。
4. 花粉が無く、受粉が必要である(表3)。
5. 成熟期は、白桃とほぼ同時期かやや早い。成熟果実の着色は、白桃と同様、微である。果実表面に細かい裂皮がわずかに発生する(表3)。
6. 核は粘核である。核割れは‘白桃’より少ない。肉質は軟中であり、白桃よりも果肉は柔らかい。果汁のpHは4.3で酸味は強くない。果肉内の着色はなく、核周囲の着色は微である。香気は中で‘白桃’とほぼ同じである(表3)。
7. 県中北部で栽培しても、果実肥大が優れ糖度が高い(表4)。他品種で生理的落果が多い年(平成12年)においても、落果率は非常に低いことから、生産の安定が期待できる(表5)。

以上のことから、103-1は清水白桃と白桃の間を埋める補完的な品種として有望である。

## [成果の活用面・留意点]

1. 103-1は、平成13年度中に登録申請予定である。
2. 白桃と同様、103-1には花粉がなく、受粉が必要である。

[具体的データ]

表1 103-1の果実品質（平成4～12年の平均値・本場）

	果実重(g)	Brix	食味 <sup>a)</sup>
103-1	343	14.0	6.7
白桃	302	12.5	5.8

<sup>a)</sup>官能試験による9段階評価(1<下下>～9<上上>)

表2 103-1の開花・成熟期（平成6～12年・本場）

品種	開花時期			成熟時期		
	始	盛	終	始	盛	終
103-1	4/9	4/12	4/17	8/9	8/13	8/17
白桃	4/10	4/11	4/19	8/9	8/14	8/18

表3 103-1の特性・果実品質（平成12年・本場）

品種	花粉	果皮着色	裂皮	核割れ率 (%)	核の粘離	肉質	pH	渋み	果肉着色	核周囲着色	香気
103-1	無	微	微	10.0	粘	軟中	4.3	無	無	微	中
白桃	無	微	無	26.6	粘	中密	4.6	中～多	無	微	中

表4 103-1の特性・果実品質（平成8～12年・北部支場）

品種	開花時期			成熟時期		果実重 (g)	Brix	pH	肉質
	始	盛	終	始	終				
103-1	4/13	4/16	4/19	8/8	8/16	297	15.8	4.6	中
清水白桃	4/12	4/15	4/19	7/31	8/8	261	13.5	4.8	や粗

表5 103-1の生理的落果率（平成8～12年・北部支場）

品種	生理的落果率(%)				
	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
103-1	0	0	0	9.2	1.5
清水白桃	1.0	4.7	2.0	5.5	25.4

[その他]

試験研究課題・事業名：モモ新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：昭和56～平成12年度

関連情報等：なし